

仙台・文化財サポーター会活動記録（保存継承部会）

第2回活動記録（保存継承部会）

○7月18日（金）例会 「仙台のダークな伝承を探る（続編）」

- ・13時30分集合～15時解散
- ・参加者 16名
- ・今回はダークな場所ではなく、広瀬川沿いで伝承の残る四つの史跡を訪れました。

①賢淵

「化け蜘蛛」伝説（下の資料参照）のある賢淵。国道48号線沿いの一角の木々の覆われた中に「妙法蜘蛛之霊」と刻まれた石碑がありました。



八幡 広瀬川 賢淵

- ・広瀬川にかかる牛越橋の北西にてこの淵で釣りをしていると一匹の蜘蛛がやってきて男の足に糸を引っかけた。男はその糸を柳の大木の根元に掛けておいた。何度か同じ事を繰り返すうちに突然柳の木が淵の中に引きずり込まれ水の中から「賢い、賢い」という声が聞こえてきたという。それから「賢淵」と言われるようになった
- ・この大蜘蛛を人々は水難除けの神として祀り、また蜘蛛にまつわる俗信から商売繁盛の神としても崇敬されていた
- ・賢淵の真上国道48号線沿いの一角に「妙法蜘蛛之霊」と刻まれた碑が立っている



②来迎寺（八幡）

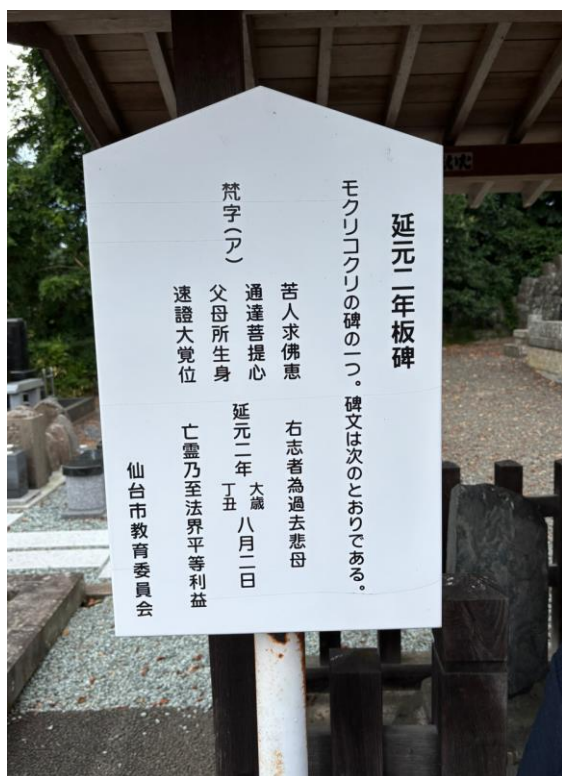
境内にモクリコクリの碑と称されている板碑（供養碑）があり、二つあったそうですが、一つは行方不明に。また、この碑の石粉が百日咳に効くと言われていることから碑が削られていました。

当日は来迎寺様の計らいで、本堂で鎌倉時代に制作された本尊阿弥陀如来にお参りすることができました（本尊は現在、塗り直しされて写真のように金ピカ）門前には「滝前丁」の辻標と文字が判読できない大きな石碑もありました。



八幡 来迎寺

- ・紫雲山恵光院来迎寺 御本尊阿弥陀如来 浄土宗の寺院
- ・モクリコクリの碑と称されている板碑(供養碑)があります
- ・弘安10年(1287)と延元2年(1337)の二つの碑がありました、現在弘安10年(1287)の碑が所在不明になっています
- ・モクリコクリとは蒙古・高麗のこととも言われ仙台市内にある最古の碑と称されるものの一つです。またこの碑の石粉が百日咳に効くという信仰から削られています
- ・鎌倉時代にモンゴル帝国が日本に攻めてきた「元寇」の時に奥州まで逃げ延びてきた蒙古人3人を祀ったという伝説もあります
- ・当時の日本人にとって蒙古襲来はとても恐ろしいものであり、蒙古襲来の時に水死した靈魂を「モクリコクリ」と言われ、妖怪の名前にもなっている
- ・妖怪「モクリコクリ」は山に出る時はイタチに似た小獣で麦畑に出る。麦畑に出る時は人の形をして背だけは自由自在となる。海に出る時はクラゲのような形で海上に群れて漂う。同じ妖怪が山や海に姿を変えて出現するというのは珍しい



③縛り不動明王（角五郎）

謂れは下記参照。毎年 7 月 23 日と 24 日に「縛り地藏尊」の例祭が行われ、この時、年に 1 度不動明王の縄がほどかれます。とてもレアな瞬間なので、この日を狙って行ってみるのもいいかも！

（画像は今年の例祭です）

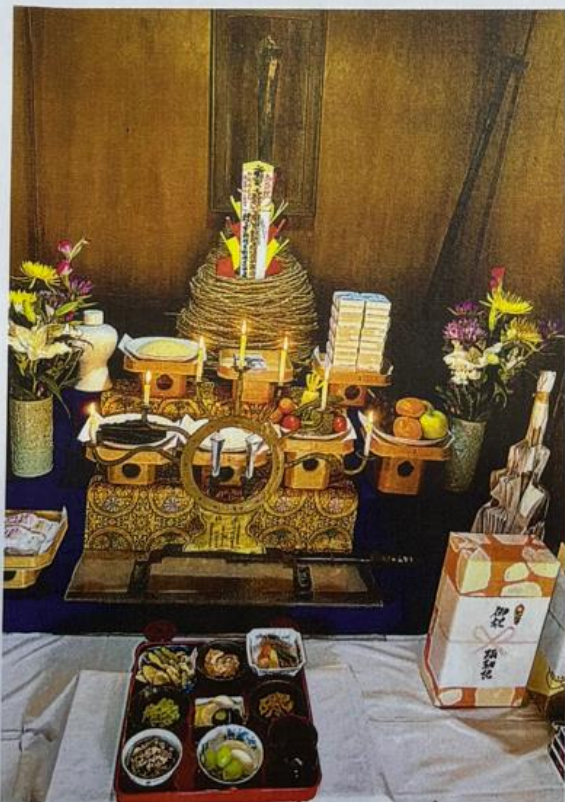
角五郎丁 縛り不動明王

今から二百余年以前寛政の頃に一体の地藏尊が広瀬川角五郎丁の河岸に流れ着いた時近くに住む人達はその石肌に縄を巻きつけたところ悪い事が次々におこったので地藏尊を不動明王としてまつりその心をやわらげた

明治初期になり地元の田手利作氏が氏神としてまつっていたのが昭和十年に至り町内の有志が地藏尊を現在の地に移し酉年生まれと子供の守り神とした

縛りの姿はどんなに縛られても即ちどんな苦難に遭おうともこれに耐え忍び素直な心で生きそして努力すれば縛り不動明王は靈験あらたな力と勇気を与えるであろうと諭している

縛り不動明王は八幡町真言宗智山派弥勒院が管理している



④ 澱不動尊文永十年板碑（広瀬町）

住宅街の家々に挟まれたところにある石碑。兵衛太郎という人の極楽往生を願って鎌倉時代に建立された供養碑ですが、どんな人だったのかは詳しくはわからないとか。

石碑の材質（井内石）や彫られた装飾などからかなり贅沢な作りの石碑だそうです。

広瀬町 澱不動尊板碑

- ・ この板碑は鎌倉時代に作られた供養碑で石材は石巻地方特産の井内石(粘板岩)である
- ・ 上部3つの梵字は阿弥陀三尊を表していてその上には天蓋(てんがい)と呼ばれる笠上の装飾があり環珞(ようらく)、月輪(がちりん)、蓮座(れんざ)と彫られ、下部には仏教の真理を詩の形で述べた四句の偈(け)、建立の趣旨、年月日が記されています
- ・ この碑は兵衛太郎という人物の極楽往生を願って文永10年(1273)8月に建立されました
- ・ この板碑の石材質や彫りの内容を見るとかなり贅沢な作りとなっており、建立に際して巨額の費用を要したことが推測でき、それが可能であった有力者によって造られた板碑と考えられます
- ・ 仙台地方にて最も古い時期の板碑の一つであり美術的にも魅力にあふれ貴重な歴史資料であります

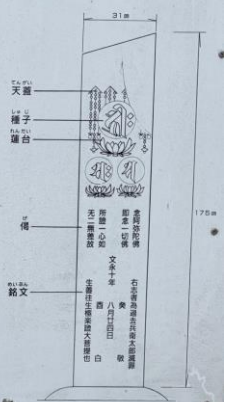


仙台市指定有形文化財（平成 6年3月29日指定） よどみ ふ どう そん ぶん えい じゅう ねん いた び 澱不動尊文永十年板碑

この板碑は、鎌倉時代につくられた供養碑で、材質は粘板岩です。上部の梵字は阿弥陀三尊をあらわして、その上には天蓋と呼ばれる笠状の装飾が彫られ、下部には仏教の真理を詩の形で述べた4句の偈、建立の趣旨、年月日が記されています。それによると、兵衛太郎という人の極楽往生を願って、文永10年(1273)に建てられたことがわかります。

仙台地方での最も古い時期の板碑の一つで、美術的にも優れ、貴重な歴史資料ともなっています。

仙台市教育委員会



梅雨明けが発せられる猛暑の中、今回もたくさんの新たな発見に出会えた例会でした。